

『緩和ケア』第35巻(2025年) — 特集・増刊号のご案内

(特集タイトルは、都合により変更があることをご了承ください)

◆ 1号(1月15日発行予定)

編集: 西 智弘、高橋美賀子

「間欠鎮静(レスパイトセデーション)を見直す」

おもに夜間にぐっすりと眠ってもらい、昼はしっかりと起きてもらうこと、などを目的とした「間欠的鎮静(レスパイト・セデーション)」の用いるべき場面やその意義について、知識や実践をまとめた。

◆ 2号(3月15日発行予定)

編集: 山口 崇、青山真帆

「泌尿器症状の緩和ケア—緩和ケアにおける泌尿器症状up-date」

泌尿器科の専門家をはじめとして、周辺領域の専門家と緩和ケア専門家も加えてさまざまな視点から、いろいろな泌尿器症状に関わる項目で日常診療の助けとなる1冊!

◆ 3号(5月15日発行予定)

編集: 森 雅紀、矢野和美、森田達也

「生活を支えるという視点からの神経ブロック」

生活を支えるうえでの包括的なアプローチの1つとして神経ブロックをとらえる直し、緩和ケアやペインクリニックの視点からヒントとなる現場の工夫を届ける。

◆ 4号(7月15日発行予定)

編集: 青山先生、田村先生

「プロの寄り添うとは何か」

◆ 5号(9月15日発行予定)

編集: 西先生、矢野先生

「緩和ケアまわりの社会的トピック15選」

◆ 6号(11月15日発行予定)

編集: 山口先生、角甲先生

「疾患(状況)によって違う!! 呼吸器疾患のアドバンスな緩和ケア」

◆ 増刊号のご案内

(6月25日発行予定)

編集: 角甲 純、青山真帆、西 智弘

「行き詰る場面・複雑な場面—がん・非がん どうにも取れない症状」

さまざまな場面における具体的な困難事例を取り上げ、各場面に対する支援の工夫や解決策、そして得られた教訓を詳細に掘り下げる。医療現場での「行き詰まり」は決して特異なものではなく、多くのプロフェッショナルが共通して直面する課題である。皆さんが共感し、実践に役立つ具体的な知見を得ることで、緩和ケアの質をさらに高める一助となることを目指す。